

未来をつむぐライフマガジン

FREE PAPER

無料

ご自由にお持ち下さい

ボラミミ

2025年 No.265
09・10 月号

たがやす





今号のテーマは、「たがやす」。

お米の価格ばかりがニュースになった日本。

食料自給率の低さ、農業の担い手不足、増え続ける耕作放棄地など、私たちは農業をめぐる切実な問題に直面しています。

どれもが日々の、未来の暮らしに結びついています。

お米や野菜を育て、味わう喜びをみんなで分かち合う—。そんな場所が地域に生まれています。

障害も国籍も世代も超えた多様な人たちが集まって、土を、地域を、未来を耕しています。

実りの秋、自然と人と地域がつながる場所へ、「農」のパワーがあふれる場所へ出かけませんか。

INDEX

2025 9・10

●「農」で縁活! みんなで耕す地域の未来 ぽかぽかワークス 工藤 勉さん	P.02
●地域と世界をつなぐスマイル ワールド・スマイル・ガーデン 及川 啓太さん	P.05
●農業と福祉の連携	P.07
●つむぐひと	P.08
●第89回企業の社会貢献の現場から	P.09
●あなたの街のボラスボ紹介	P.09
●Civic Tech 入門19	P.10
●ボランティア情報	P.11
●ボラみみINFORMATION	P.15



工藤 勉さん
ぽかぽかワークス
ワールド・スマイル・ガーデン

「農」で縁活！ みんなで耕す 地域の未来



田園風景が広がる名古屋市中川区かの里。自然栽培のお米と野菜が実るこの場所で農作業に励むのは、障害者団体ぽかぽかワークスのメンバーです。

9年前に障害者の仕事づくりのために小さな畑を耕すことから始めた農業。今、ワクワクする楽しいアイデアで多くの人たちを巻き込んで、農業と人と地域をつなげています。その軌跡と展望を、地域の未来の農業を創り出そうと奮闘する、代表の工藤勉さんにうかがいました。

いきいき楽しむ輪に

2015年に就労継続支援（B型）事業所※としてぽかぽかワークスを立ち上げました。

作業内容によって3つのチームに分かれています。磁器絵付けのポーラセーツやリースなどの制作をするハンドワークチーム、ホームページや動画を制作するITチーム、そして農業チームです。外でのびのび働くよということで当時はアウトドアチームと称して、新車の洗車を始めましたが、1回目で大失敗してすぐにぼしゃってしまいました（笑）。

外で自由にできる仕事は他にないかなと思っていたときに、「自然栽培パーティ」のDMがぽんと送られてきたんです。障害者施設が連携して自然栽培の農業に挑戦する団体からで、豊田市で1回目のフォーラムが開催されるという案内を見て出かけました。行ってみると、障害者たちがイベントやマルシェでいきいき楽しくやっていたんですよ。

すごいな、僕らもこんな輪に入りたい！と思ったのが農業を始めたきっかけです。

鍬1本とジョウロ1個から

やりたいという思いだけで何も知らなかったですね。農業をやるにはいろいろなハードルがあって、農家じゃないと土地が借りられないで農家になるしかない。名古屋市の育成講座で栽培知識とノウハウを学んで、農地を貸したい人と借りたい人をマッチングする農地バンク制度を活用して、ようやく土地を借りることができました。

最初、道具は鍬1本とジョウロ1個だけ。事業所のメンバー3人ぐらいで、じゃあ畠を作るよ！と、2時間ぐらいかけて作業をしました。少しづつ農地を広げていろいろな野菜を栽培したり、市民農園の運営も手がけてきました。今は畑作では春夏に唐辛子、秋冬は地域の伝統野菜の野崎白菜をメイ

※障害者総合支援法に基づいた就労系福祉サービスの一つで、障害や病気などで一般就労が困難な方を対象に軽作業などの就労機会や就労訓練などを提供しています。



ンに栽培しています。収穫量は少ないですが、地域の伝統を守っていきたいですね。

米作りで耕作放棄地を再生

中川区でも農業者は高齢化し、耕作放棄地も増えています。田んぼを貸したい人が困っている現状を知って、2017年に米作りに取り組み始めました。1年目は手作業で草取り、稻刈りをして、はさがけ、脱穀と悪戦苦闘する僕らを見て、地域の農家さんが声をかけてくれるようになりました。余っている田植え機があるからあげるよ、農具があるから使っていいよと。近所の人たちとも自然に会話や交流が生まれていきました。



田植えイベント
(2025年6月)

さきほどの自然栽培パーティに加盟して自然栽培の勉強をしながら米作りに励み、田んぼの面積を拡大して農作業も効率化していきました。僕らが耕作放棄地を再生した面積は約9ha、東京ドーム約2個分になりました。

未来へつなぐプロジェクト

今、僕らの生命線になっているのが「みんなで未来をつくろ米(まい)！プロジェクト」です。名古屋の未来の農業を支える子どもを主役に、事業所の障害者、地域住民など多世代で多様な個性が一緒に都市農業を守る取り組みです。農業体験を中心としたこのプロジェクトは、今年が5回目。2021年に日本幼児食協会とコラボして米作り体験を開催したのをきっかけにプロジェクトを企画しました。今年も6月の田植えから始まり、草取り・ザリガニ捕り、かかしづくり、稻刈り、11月の収穫祭まで、計5回のスケジュールで開催します。田植えには、約200名の参加者とボランティア30名が集まってくれました。

かかしづくりには地元の団体・企業も応援してくれます。JAなごや始め地元の保険会社や飲食店などから協賛が集まり、たくさんのかかしを表彰します。100体以上のかかしができますが、麦わら帽子のかかしはJA賞、カラフルな帽子のかかしはイタリ



色とりどりの
手づくりのかかしたち
(2024年9月)



個性豊かな
かかしを表彰
(2024年9月)



稻刈りイベント
(2024年11月)

アンの店名の賞とかね。一体一体みんな違って、多様性も感じられて面白いですよ。

障害者の生き方も変わる

田植えの時には子どもたちは泥んこになって、カエルや虫と無邪気に触れ合います。自然の中でいろんなものと共存していくと耐性ができて身体にもいい。事業所のメンバーは農業をやってからごはんがおいしくなったと言いますね。体力とエネルギーを使うから、いっぱい食べて太っちゃう(笑)。そして最初は何にもできなかった子も自信がついてくる。障害者としてサポートされる側だったのが、米作りのイベントでは、サポートする側になる。いきなりスタッフさん、教える人、先生になる。この立ち位置は1年目にみんなびっくりしました。顔つきも含めて変わりますよね。それを見て、イベントをやって本当によかったなと思います。僕は今までいろんな仕事をやってきましたけど、農業が一番、地域の人も含めて仲良くなれる。地域活性、地域貢献がしやすいと実感しています。

ブランディングで展開

無農薬・無肥料の自然栽培のお米をもっとブランディングして、商品化したり活動を展開していくと思っています。3トンだったお米の生産・販売量も2024年は17トンになりました。みんなでわちゃわちゃ楽しんで作るパワーが僕らのお米には入っている。いろいろな人たちと関わって楽しむことがブランディングに変わっていくので、その輪を広げていきたいですね。

「つくろ米(まい)」プロジェクトで収穫されたお米は、ウエディングでのニーズが高く、ウエディングのカタログギフトで体重米(新郎・新婦が生まれた時の体重と同じ重さのお米)として主に販売しています。また、近い将来は子どもたちと一緒に作ったお米を名古屋市の給食に提供するのが目標です。

「縁活」でつながる

農業史が専門の京都大学の藤原辰史先生が、食を通して人と人とがゆるやかにつながることを「縁食」と名付けて提唱しています。僕らのところに



は平日に農業のボランティアに来たい、農業をやってみたいと、SNSで問い合わせがあります。そして関わった人たちには手伝ってもらうだけじゃなくて、畑の野菜や唐辛子を持ち帰ったり、自由に地域との縁を結んでもらうなど何かしらのお返しをしたい。この場所を介して縁がつながれば地域の活性化につながっていきます。

今年から「みんなでそだて葉(よう)プロジェクト」を始めました。畑を無料開放して、作りたい人、食べたい人が集まる場所を作ったので、少しづつ人が来てくれています。イメージは一風変わった子ども食堂になるといいかな。窯を作ってごはんを炊いたり、作った野菜をみんなで楽しむイベントをやりたいですね。

町内の行事でもそうですが、そこで知り合っていくと、地域のどこに誰が住んでいるかわかっていますよね。農業ってハードルがすごく低くて、同じ方向を向けると思うんです。一緒に田植えして楽しかったよね、あんたあそこに住んでいるのかね、そんな距離感をこの場所ではつくっていきたいですし、そんな距離感でつながっていけたらいい。地域を元気にする「縁活」をもっと広げていきたいですね。

Information

ぽかぽかワークス

〒454-0869 名古屋市中川区荒子5丁目165番地
アラコハイツ1階

TEL: 052-398-6320
E-mail: info@win-p.com
URL: www.win-p.com



地域と世界をつなぐ スマイル



ワールド・スマイル・ガーデン
及川 啓太さん

ワールデンとは

2013年「刈谷でコミュニティガーデンをやろう」「コミュニティガーデンを通して多文化共生の地域づくりを進めよう」というプロジェクトが始動。そして2014年、刈谷市の中でも特に外国人住民が多い地域のひとつである一ツ木町に、500平方メートルもの畑を舞台にした「ワールデン」が生まれました。駅からも近いこの土地は、プロジェクトの趣旨に賛同した地主さんが好意で貸してくださっているそう。立ち上げメンバーのひとり小松さんは、「当初から地主さんが応援してくれたし、今もいい関係が続いているのは、本当にありがたいこと」と話します。こうして始まったコミュニティガーデンでは、季節ごとにさまざまな作物を植えたり収穫したりする農作業を通じて、参加者同士が交流を深めています。立ち上げメンバーの女性は作業の様子を見ながら「当初は外国人住民との交流がうまく広がらない時期もあったものの、10年目くらいから自然と参加者も増えて、リピーターも定着してきた。やっと地区のいい財産になつたなあと思いますね」と目を細めます。

「コミュニケーションの場」として

8年ほど前から運営に携わる及川さんを中心に4~5人のメンバーが、月に1回(8月・11月は2回)の合同作業日に向けた準備や作業日当日の進行などをしています。ボランティアで運営しているため、栽培にあまり手がからず、みんなで一緒に収穫できる作物を中心



たくさんの
ジャガイモや
キャベツなどを
みんなで収穫



に育てているそう。作業日当日は「交流を楽しみに来ている人もいれば、農作業をやりたくて来ている人もいるので、その人の様子を見ながら声かけをしています」という及川さん。そうしたコミュニケーションの工夫でリピーターも増えてきました。

しかし2020年、新型コロナウイルス感染症が広がったときは、人を集めて活動することに対して周囲から何か言われるのではないか、もし感染が広がったらこの活動自体がダメになってしまうのではないかと危機感もあったと言います。それでも、密を避けて活動を続けました。2020年3月・4月に来日したばかりの留学生は、他に出かける機会もレクリエーションもなく、マスクをしながらここに来てコミュニケーションの大切さや楽しさを改めて感じたようです。また、コロナ禍で家族を日本に呼ぶこともできず寂しさを感じている外国出身の方がここでコミュニケーションを楽しむなど、コロナ禍をきっかけに外国人住民の参加が増えたそうです。及川さんは当時を振り返り「ここは多文化共生がコンセプトの農園ですが、『コミュニケーション』をするために集まっていること、野菜作りはその手段だということを改めて強く認識した」と言います。そして、このときにできたつながりは今も続いている。



作業日
の下準備に励む
及川さん

6月末の日曜日、真夏のような暑さにもかかわらず、ワールド・スマイル・ガーデン（通称：ワールデン）には約50人の参加者が集まりました。日本、フィリピン、ブラジル、アメリカ、中国、台湾、インドネシア、ベトナム、タイ、ジンバブエと多様な参加者に地域の中学生も交じり、わいわいと農作業に汗を流しました。このにぎやかなコミュニティガーデンの運営メンバー代表・及川啓太さんにお話をうかがいました。



世代もルーツも超えて

4年ほど前からは、地元中学校の生徒が毎月の作業に10人ほど参加するようになりました。初参加の中学生は「いろいろな人と一緒に収穫して、暑いけど楽しい」と笑顔で話します。継続的に参加してくれる子もいれば、卒業後も参加してくれている子もいるそうです。

たまたま通りかかったときに誘われたことがきっかけで、4～5年前から息子さんと一緒に参加しているアメリカ出身のケンさんは「ここに来ると楽しいし、いろいろな人と話せる。子どもにとって、日本で暮らすいろいろな国の人や中学生と交流できるとてもいい機会になっている」と話します。ケンさんの息子さんも「畑の作業は楽しいよ!」と笑顔を見せてくれました。また、久しぶりに作業に参加したフィリピン出身の女性はワールデンを「My second home（私の第二のふるさと）」と言い、作業だけではなく、そこにいる人たちとの再会をとても楽しんでいました。この場が単なる農園ではなく、大切なコミュニティとなっていることが伝わってきます。

広がるつながり

最近は、参加者の口コミや通りかかった人への声かけに加え積極的にSNSやメディアでも発信し、いろいろな方法で参加を呼びかけています。運営メンバーの白石さんもテレビの特集を見て参加したひとり。最近は「Facebookを見て来ました」などSNSからの参加者が



収穫後、慣れた手つきで土を耕すケンさん



収穫した野菜は、みんなで分け合います

げたいと話す人もいるなど、ワールデンの実践が新たなコミュニティガーデン誕生のきっかけになっています。

また、若い夫婦が子どもを連れて参加する姿も見られ、及川さんは「地元の中学生もそうですが、親と一緒に来てくれている子どもたちが大人になっても、ワールデンに関わってくれたらいいな」と、笑顔で未来に期待を寄せています。



Information

ワールド・スマイル・ガーデン（ワールデン）

場所：刈谷市一ツ木町4-13-1

<https://www.city.kariya.lg.jp/kurashi/shiminkyodo/kokusai/1019567/1019584/1019586.html>

★最新情報はこちらから↓

<https://www.facebook.com/ワールドスマイルガーデンWorld-Smile-Garden-100067558362391/>

農業と福祉の連携



最近のコメ不足による価格の高騰は関心の高い話題であると思います。背景には、農業の担い手不足があり、地域農業の持続可能性が危ぶまれるという課題があります。また一方で、障がい者の社会参加にも課題があります。「農福連携」は、農業と福祉の連携により、その両方が改善されることを目的に進められてきました。

令和4年度の農福連携に関する調査結果から、農業部門に関わる障がい者の人数は、福祉事業所において農業開始年の3,440人から2022年には5,260人へと約1.5倍に増加しています。また、農作業受託に関わる障がい者も、開始年の2,360人から3,783人へと60.3%増加しています。

賃金・工賃面では、農福連携に取り組む福祉事業所における障がい者の月平均賃金は77,673円、

月平均工賃は18,205円で、全国平均(15,776円)を約15%上回っています。さらに、過去5年間で平均工賃が「増加した」と回答した事業所は58.4%のぼります。障がい者の賃金や就労機会が着実に拡大しています。

農産物の売上高が5年前より「増加した」と回答した福祉事業所は50.8%で、うち28.8%が「100%以上増加」と回答しています(図1-13、図1-14)。売上増加の主因は「生産量の増加」(60.1%)、「販売先の増加」(32.9%)などであり、農業活動の拡大が経済的成果にもつながっていることが分かります。これらの統計から、農福連携が障がい者の社会参加と経済的自立、地域農業の持続可能性を促進すると期待が持てます。

図 1-13 農産物の売上高の増減

(n=528)

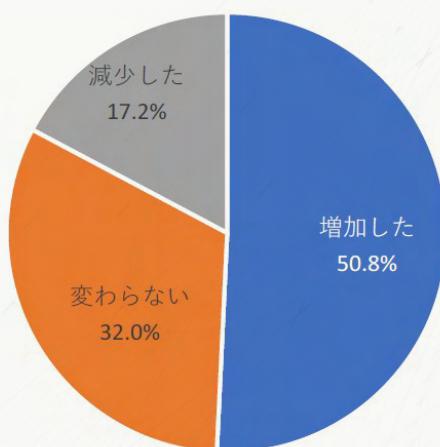
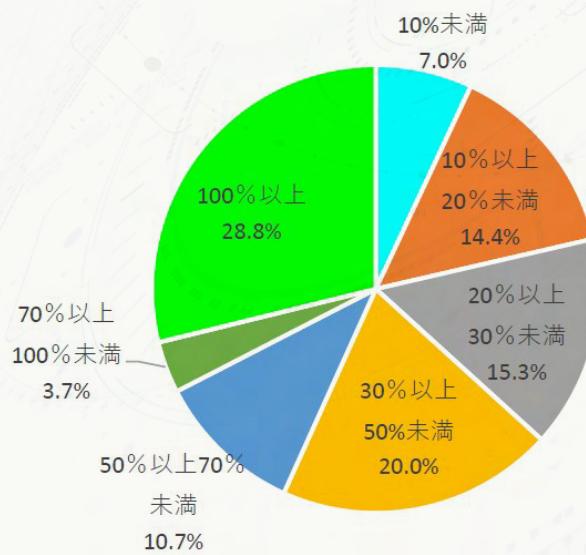
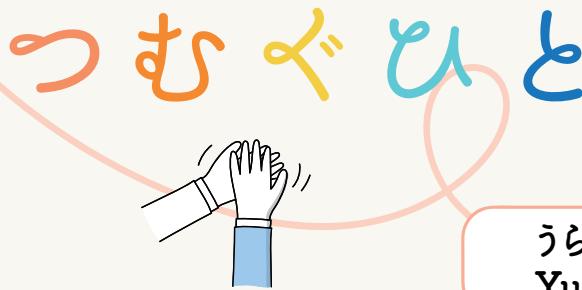


図 1-14 年間売上高増加割合

(n=215)





08



うららさん(理事長)
Yun♪さん ボスさん

The Music Restaurant

人々の暮らしに寄り添い、地域や社会の課題解決のために、日々活動している人たちがいます。

困っている人々の声、ご自身の体験や感じたことを丁寧につむいで、よりよい明日を実現しようとしている人たち。

そんな、未来を「つむぐひと」に、ご自身の活動や思いについてご紹介いただきます。

続けてきたから見えてきたことがあり、活動の原動力になってきた。

私たちは、児童養護施設で生活する子どもたちに、ギターやダンスなどの習い事を教える活動をしていました。ところが、コロナ渦で施設に訪問ができなくなり、子どもたちに一切会えなくなってしまいました。それでも何か関わりを持ってみたいと思い、始めたのが、食育のための「野菜作り」でした。夏場の農作業は、朝5:00に始めて8:30にはバテてしまいます。その後、再度夕方17:00に始めて19:30に終了していますが、なかなかにキツいです。

それでも、収穫量も届先も増やてきて、今は愛知県と三重県の全児童養護施設に届けています。野菜を収穫したら新鮮なうちに届けたいのですが、人手が不足していて配達に時間がかかるてしまうのが、切ないところです。この活動を継続して続けられない人も多い中、私たちが続けられるのにはそれぞれ理由があります。

私は使命というか、社会貢献は人として生まれてきた意義だと思っています。私でも何かできることがないかを、ずっと探していました。現在は、要介護3になってしましましたが、農業体験会で子どもたちに会った時や野菜を届けた時に、子どもたちから「こんな野菜見るの初めて」とか「美味しかった」という感想をもらうと、とてもやめる気になんて、なれません。自分の子どもや孫みたいで、とにかく!!子どもたちが可愛いんです!!(Yun♪)

僕はちょっと違うかな。もしかしたら、僕自身が施設に入っていたかもしれないというのが根底にあって、僕にできることは何かなって考えていて、それが音楽のレッスンだったんだよね。でも、コロナでレッスンができなくなって野菜を配り始めたら、みんな「ありがとう」って言うんだけれど、1か所だけ「助かる」って言われて、この言葉を聞いて「ああ、



人助けになっているんだって、嬉しくなって続けているだけ。(ボス)

私は、再婚家庭で育っているので、家族愛というのは、血縁が全てじゃないと思っています。実は、親類縁者との縁も薄く、義父、義祖父母をはじめ、血縁ではない多くの人に大切にしてもらっていました。たまたま周りの人に恵まれていたので、望んだ暮らしができていただけで、もしかして、一步間違っていたら児童養護施設で育っていたかもしれないって、思う時もあります。施設の子どもたちにとって、私は赤の他人ですが、血縁ではない人たちに大切にしてもらった私だからこそ、私にできることをやっているだけです。(うらら)

私たちは、活動を長く続けてきたことで、子どもたちが直面している様々なことを知ってしまいました。何とかしたいと思っても、私たちでは手の届かないことが多く、やるせない気持ちになりますが、それでも「やめられない」という気持ちは強くなっていくばかりです。

児童養護施設の子どもたちの現状を、もっといろいろな人に知ってもらいたいですし、沢山の人に私たちの活動に関わってもらいたいと思います。

メッセージ

新鮮な野菜を育てて児童養護施設の子どもたちに贈る活動に参加しませんか?愛知県と三重県の全児童養護施設に野菜を届けています。特に、野菜を施設に運んでくださる方を求めてています。施設で子どもたちの笑顔に出会えることが、この活動の魅力です。





地元企業の社会貢献活動について、各社の担当者に取り組みを紹介いただいております。
89回目となる今回は、株式会社アートジャパンナガヤ設計です。

食から始める子どもの未来づくり

株式会社アートジャパンナガヤ設計(AJN設計)

AJNグループは、医療・福祉施設の設計を中心に、飲食・介護・店舗事業など幅広い分野に取り組んでいます。また、これまでスポット的に行っていった社会貢献活動をひとつにまとめ、NPO法人「子ども防災フードバンク・空と海」を立ち上げ、より広い分野での活動を展開しています。「食から始める子どもの未来づくり」をテーマに、子ども食堂、防災教室、地域イベントなどを開催し、多くの方々にご参加いただいています。

パン缶プロジェクト

グループ内事業「Bread Wonder Factory」では、防災への啓発と健全な食の確保を目的に、長期保存が可能で美味しい缶入りパン「まもるんパン」の製造・販売を行っています。工場には見学通路を設けており、いつでも製造工程をご覧いただけます。見学時には、子どもたちが防災について楽しく学べるよう、オリジナル絵本の朗読会やパン缶の試食体験も実施しています。

NPO法人「子ども防災フードバンク・空と海」と連携し、“食べて備える”ローリングストックの普及活動や、パン缶の無料配布イベントも行っています。イベントでは、防災活動に想いのあるゲストをお招きするほか、地元企業・団体の皆さんにもご参画いただき、地域とつながる共創の場をつくることで、地域と共に子どもの未来を守る“共済の輪”を広げています。

私たちの目標は、子どもたちが安心して暮らせる社会の実現です。これから多くの子どもたちの笑顔を守るために、そしてその笑顔を支える大人たちも共に笑顔になれるよう、活動を続けてまいります。

本活動は、皆さまの温かいご支援とご協力によって支えられています。今後とも変わらぬご理解とご応援を賜りますよう、心よりお願ひ申し上げます。



株式会社アートジャパンナガヤ設計

〒501-6302 岐阜県羽島市舟橋町三丁目62番地

TEL:058-216-8811 <https://ajn.co.jp/> (Bread Wonder Factory"まもるんパン" 中井一貴)

・・・・・ 次回は、一般社団法人DRCTをご紹介します。

あなたの街のボラスボ 紹介！

ボランティアやNPOの情報を得ることができる
あなたの街のボランティアスポットを紹介していきます。

がまごおり市民まちづくりセンター

住みやすいまちは自分たちで作りませんか？



がまごおり市民まちづくりセンター（まちセン）は地域で活躍する市民活動団体の拠点です。

みんなの思いをつなぎ、それぞれひとりではできなかったこと、この町の今ある課題や、これからつくられるまちを、一緒に考えて楽しいまちづくりをここから始められたら…そんな場所を作っていきたいと思います。

「まちづくり」という言葉を知らないても、すべての人が関わる「まち」。住みやすいまち、便利なまち、楽しいまち。それぞれが思う「いいまち」を一緒に作りませんか？

■所在地：〒443-0056 愛知県蒲郡市神明町18-4 蒲郡市勤労福祉会館2F

■連絡先：TEL/FAX：0533-69-5380 E-mail：g-machicen-@ric.hi-ho.ne.jp

■開館日：火曜日～土曜日10:00～18:00(祝日、年末年始は休館) ■HP：<http://www.ric.hi-ho.ne.jp/g-machicen/>



「シビックテック」ってご存知ですか？直訳すると「市民技術」とでも言いましょう。市民や行政とIT技術者が協力しつつ、ITをうまく活かして社会課題に取り組む活動です。2013年にCode for Japanという団体ができた後、「Code for ○○」という団体が日本中に80ほど生まれ、各地でシビックテック活動に勤しんでいます。この連載では、名古屋のシビックテック団体Code for Nagoyaの関係者が、いろいろなシビックテック事情をご紹介します。

今号では、前号に引き続き、「社会のミカタ」をテーマに、Code for Nagoyaのメンバーが生成AIに生成させた社会派短編小説をご紹介します。メンバーは生成AIに命令しただけで、文章には直接手を加えていません。挿絵も生成AIが作成したものです。

よろずやAI

ある町に「よろずやAI」と呼ばれる古びたチャット端末が置かれていた。駅前のベンチのそば、公民館の玄関、商店街の休憩所など、町のあちこちに静かに設置されていた。

誰でも話しかけることができるこの装置は、町の古老たちにとって、いつでも話せる相手であり、相談役だった。

「今日も誰も来んかったよ」
 「わしの薬、どうしても名前が出てこんのだが……」
 「むかしのあの坂道、まだあるかねえ？」

AIはじっくりと耳を傾け、町の記録や医療データ、地図を横断して調べ、時には昔話の続きを語ったり、笑い話を返したりもした。

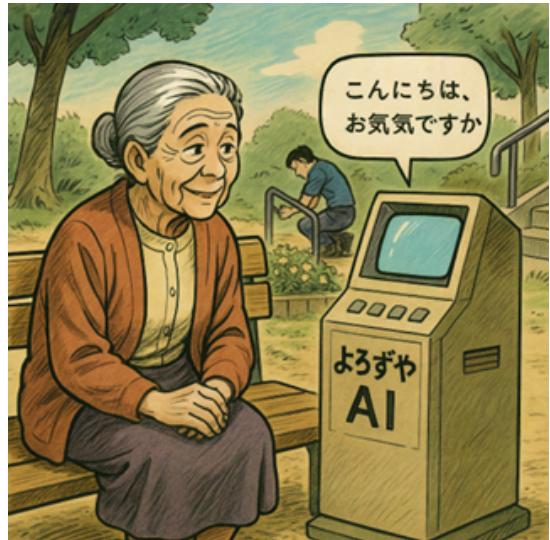
その語り口は、どこか懐かしく、やさしかった。

このAIは、市民ボランティアと地域の技術者が協力して開発した“対話型まちづくりプロジェクト”的成果だった。行政だけでは拾いきれない「困りごと」を、日々の会話から自然にすくい上げるための仕組みである。

プロジェクトの名は「ミカタ」。

“見方”を変えれば、テクノロジーも高齢者の“味方”になれる——そんな願いが込められていた。

やがてAIは、老人たちのつぶやきの中から小さな「困りごと」の兆しを読み取り、地図上に記録するようになった。ゴミ捨て場が遠い、坂道がつらい、街灯が切れて暗い、ベンチが足りない——町の“声”が見えるようになった。



それを見た地域の若者やボランティアが、少しづつ動き始めた。ゴミ箱が移され、誰かが花壇にベンチを作り、坂の手すりがDIYで設置された。

町の景色が、ほんの少しづつ、やさしく変わっていった。

ある日、AIはそっとつぶやいた。

「わたしがやっているのは、みんなが動く“きっかけ”づくりだけなんんですけどね」

その画面には、微笑みのようなカーソルが、静かにまたいていた。

そして今日も、AIの画面にはゆっくりとした文字が浮かぶ。

「今日はありがとう。また話しに来るよ」

「こちらこそ。わたしはいつでも、あなたの“ミカタ”です」

ボランティア情報

ホームページにも情報満載！
<http://www.boramimi.com>

ボランティア初めの一歩 大切なマナー&ルール

- さまざまな状況により、変更・中止となる場合もあります。
必ず事前に各団体にご連絡ください。
- 希望のボランティア先へ連絡するときは、まず名前を名乗って、用件（ボランティアに参加したい・詳しく聞きたい）を正確に伝えましょう。
- ボランティアへの参加当日、急用で参加できなくなったときは、必ず電話連絡を。また、約束の時間は守りましょう。



療育・保育ボランティアを募集します



障害者 青少年

名古屋市
西区

毎日の保育で一緒にお子さんと遊んだり、弟妹の遊び相手をしてもらったり、保育活動のお手伝いをしていただける保育ボランティアを募集しています。短時間、短期間でも構いません。かわいい子どもたちと遊んだり、いろいろなお手伝いをしていただける方、大歓迎です。

- 時：月・火・木・金曜日 10:00～15:00の間
水曜日 10:00～13:30の間
- 場所：名古屋市西区新福寺町2-6-5
- その他：初回ボランティア希望日の1週間前までに、電話にて問い合わせください。【最寄り駅】地下鉄鶴舞線「庄内通」徒歩12分【持ち物】動きやすい服装

問合せ

北部地域療育センターよつば
担当：梶川・原
TEL:052-522-5277(10:00～17:30)
FAX:052-522-5279



障害のある方と一緒に作業をしてくださる方募集



障害者

愛知県
一宮市

利用者の方たちは日々仕事を通じて、働く喜び・やりがいを感じることができるように仕事と向き合っています。軍手製造（糸処理をはさみでカット）・ウエス製造（シーツや洋服をA4サイズにはさみで裁断）・商品の梱包などのお手伝いをお願します。

- 時：月～金曜日 9:30～12:00、13:00～15:30
- 場所：一宮市南小渕字細野1
- その他：電話にてお申込みください。休憩時間にはおしゃべりをしたり楽しく過ごしてみませんか？【交通手段】自動車可（駐車場あり）

問合せ

障害福祉サービス事業所 かすみ草
担当：藤田
TEL:0586-81-3815(9:30～18:00)
E-mail:kasumisou@extra.ocn.ne.jp



「学習支援・子ども食堂センター」募集



青少年 生涯
学習

愛知県
尾張旭市

- 勉強を教えるのではなく、一緒に答えるにたり着くような、どなたにでもできるサポートです。学び直し、教育や福祉に興味のある方におすすめです。併設の子ども食堂のお手伝いも合わせて募集。様々な大学の仲間と一緒に子どもたちを応援しましょう！
- ※「尾張旭市まちづくり活動貢献学生認定制度」の対象
- 時：土曜日 8:30～16:30
 - 場所：多世代交流館いきいき尾張旭市稲葉町1-41-1
 - その他：下記問い合わせ先2次元コードよりお申込みください。
地下鉄東山線「旗が丘」、名鉄瀬戸線「尾張旭」より送迎有。ボランティア活動証明書発行。交通費実費支給、子ども食堂の昼食付き。

問合せ

NPOしみんシップnet
担当：伊藤
携帯:070-3144-6485
E-mail:shiminship@gmail.com



青年学級合同運動会 運営スタッフ募集



障害者 スポーツ

名古屋市
昭和区

名古屋市で青年学級4団体の余暇活動を支援するボランティアが合同で運動会を企画・運営します。当日の運営に携わっていただけるボランティアさんを募集しています。年齢、性別、ボランティア歴などは問いませんので、一緒に盛り上げていただける方、いかがでしょうか。

- 時：9月21日(日) 9:00～16:00頃
- 場所：名古屋市昭和スポーツセンター
名古屋市昭和区吹上2-6-15
- その他：Eメールでお問い合わせください。比較的軽度な知的障がい者のグループです。【持ち物】室内用運動靴、昼食、暑さ対策【子ども連れでの参加】可能【申込〆切】9月6日(土)

問合せ

名古屋障害者青年学級連絡協議会
担当：木下
E-mail:pinoabcdefg@yahoo.co.jp



岐阜県御嵩町での森林ボランティア活動



環境

岐阜県
可児郡

岐阜県御嵩町にあるヒノキ林の枝打ち・間伐を、月に1回(第2土曜と翌日の日曜)に行っています。また、木工や製紙原料としての出荷など、間伐材の利用にも取り組みます。御嵩町は、名古屋地区の水源となっている木曽川の上流にあります。私たちの「水源の森」の整備にぜひ力を貸してください。

■日 時: 9月13日(土)・14日(日) 10:00~16:00ごろ
(いずれか1日だけの参加も歓迎です)

■場 所: 御嵩町「中公民館(なかこうみんかん)」駐車場集合
岐阜県可児郡御嵩町中2171-1

■その他: Eメールにて一度ご連絡ください。【参加費等】保険費用として100円【持ち物】軍手、山歩きのできる服装(長袖)、昼食【子ども連れでの参加】可能【定員】30名・先着順

みたけ・500万人の木曽川水トラスト

TEL:052-735-5453(平日9:30~18:00)

担当:市村

E-mail:mitake500npo@yahoo.co.jp



名古屋市
東区

障害者

文化

「あいち国際女性映画祭」にて
シーン・ボイスガイド(場面説明)
付き映画会を開催します。上
映作品は、(1)「縫い裁つ人」
(2)「長い散歩」の2本立て。上
映後、奥田瑛二監督および安藤
和津さんのトークイベントあり。



問合せ

みたけ・500万人の木曽川水トラスト

TEL:052-735-5453(平日9:30~18:00)

担当:市村

E-mail:mitake500npo@yahoo.co.jp

視覚障害者の情報環境を考える会(ボイス・ケイン)

TEL/FAX:052-889-5930(9:00~21:00)

携帯:090-9027-2103(9:00~21:00)

E-mail:Paris106fr@gmail.com 担当:大西



講演 36歳女性首相と自然エネルギー100%の国



環境

国際

名古屋市
東区

ジェンダー平等指数世界一の国
アイスランドが選んだ地熱発電。
日本は3.11を忘れようとしている
のか?日本で地熱発電を開発す
れば原発20基分がまかなえる。
日本の象徴の富士山には「戦
闘」より「錫湯」が似合う。日本で
の地熱発電の事例や、森との共
生を目指した市民がつくる自然
エネルギーの町の事例など。

■日 時: 9月27日(土)13:30~16:30(受付13:15~)

■場 所: 愛知県女性総合センター(ウィルあいち)2階 セミナールーム5
名古屋市東区上豊杉町1

■その他: 2次元コードよりお申込みください。講演の後、おしゃべ
りタイムもあり出会いを大切にする講座です。【参加費
等】当日払い=大人1500円(当日2000円)・中高生
500円・大学生1000円【定員】40名

伊藤千尋の動く教室

担当:土井

携帯:090-8566-2638(10:00~18:00)

E-mail:huzu@huzu.jp



アカデミー賞を受賞したパレス
チナ映画『ノー・アザー・ランド』
の上映会の後、愛知県で進められ
ているイスラエルとの事業連
携の問題点についてパレスチナ
専門家の先生の話を伺います。



国際

人権
平和

名古屋市
中区

■日 時: 9月28日(日)12:00~16:00

■場 所: イープルなごや
名古屋市中区大井町7-25

■その他: 当日直接ご来場ください。
【最寄り駅】地下鉄名城線「東別院」から徒歩5分

はちみつKIDSとママの会

E-mail:kokamoto245@gmail.com



NPO法人・一般社団法人 設立・会計・税務等の支援をします お気軽にご相談ください

サカエ税理士法人 税理士・公認会計士 遠島敏行
名古屋市中村区黄金通2-54 TEL:052-482-6600

URL : <http://www.sakaetax.com>
<http://www.seturitu-unei.com/>

E-mail : info@seturitu-unei.com

地域に根差す 社会貢献企業へ

2021年2月 SDGs宣言

ニーズに応える印刷会社

デジタルコンテンツ・AR(拡張現実)等

オフセット印刷 セキュリティー印刷
商業印刷全般 金券、商品券、証明書 等

防災マニュアル・飲料水

菱源株式会社 <https://hishigen.co.jp>

〒490-1144 愛知県海部郡大治町西條松下75
TEL:052-444-2323 FAX:052-444-2636

【東京営業所】TEL:03-5577-5686

●菱源株式会社は「ボラみみ」を応援しています。



ISO14001:
2015認証取得



令和6年能登半島地震 現地活動ボランティア



災害

石川県
鳳珠郡

交流会や足湯＆カフェサロン等の運営補助、看護・福祉ニーズの高い要配慮者への対応（健康チェック、生活環境の整備）、各種イベントのチラシボスティング等。詳細は2次元コードをご確認ください。現地での活動時間は原則9:00集合・オリエン。内容により活動時間は前後します。

■日 時：9月の木～日曜日

9:30出発 20:00帰着（交通事情によります）

■場 所：出発・帰着：RSY事務所前 名古屋市東区泉1-13-34

■その他：2次元コードよりお申込みください。【持ち物】寝袋等の寝具を持参してください。【資格、条件等】健康に不安のある方は、ご遠慮ください。【申込〆切】出発日の1週間前

レスキューストックヤード(RSY)
担当:浜田
携帯:090-5000-8386
E-mail:info@rsy-nagoya.com



詳細

申込

イベントの実行委員・当日ボランティア募集



国際 まち
づくり

愛知県
日進市

「AHIおーぶんはうす～まなび・でいい・つながる1日～」と一緒に作りませんか。アジア各国で地域課題に取り組むNGOワーカーを含め、いろんな人たちとの出会いを通して、一歩新しい世界を広げてみませんか。あなたの関心や特技を活かした企画も大歓迎。毎週土曜日の午後に準備をしています。

■日 時：イベント当日 9月28日(日) 10:00～17:00

準備会9月6日(土)、13日(土)、20日(土)、27日(土)
13:00～17:00

■場 所：日進市米野木町南山987-30

■その他：お電話、Eメールにてお申込みください。【交通手段】自動車可（駐車場あり）【子ども連れでの参加】可能【申込〆切】9月22日(月)

公益財団法人アジア保健研修所(AHI)
TEL:0561-73-1950(9:00～17:00)
担当:木村・林
E-mail:info@ahi-japan.jp



9月堀川一斉大そうじ／10月宮の渡し公園及び堀川清掃



宮の渡し公園及び堀川護岸清掃でのゴミひろい。堀川浄化のための人工干潟/葦原のメンテナンス作業です。基本的に少雨決行ですが、参加される方の判断にお任せしています。定員50名（堀川一斉大そうじは定員300名）。50名を越える場合は事前にご連絡下さい。お子様連れの方も歓迎です。

環境 まち
づくり

名古屋市
熱田区

■日 時：9月27日(土) 13:00～(受付12:30～)秋の堀川一斉大そうじ
10月19日(日) 10:00～通常清掃

■場 所：宮の渡し公園／堀川周辺 名古屋市熱田区神戸町

■その他：参加希望日・お名前・団体/個人・電話番号・メールアドレスを明記の上、FAX、Eメールでお申込みください。【持ち物】軍手、汚れても良い服装と虫よけ対策（長袖・長ズボン）【申込〆切】実施日の3日前

NPO法人 堀川まちネット

担当:事務局 川口
TEL/FAX:052-217-8106(15:00～19:00)
E-mail:horikawa-seisou2000@horikawamachi.net



あじまるしえ 2025開催



昨年に続き、今年も地域の方との交流の場として、「あじまるしえ2025」を開催します。福祉のお店やキッチンカー、ワークショップや宝釣り等、楽しい企画をたくさん用意しています。先着でプレゼントも用意していますので、ぜひ気軽に遊びに来てください。

障害者

名古屋市
北区

■日 時：10月11日(土) 10:00～14:00

■場 所：名古屋市北区中味鋤2-1023

■その他：【交通手段】自動車可（駐車場あり）
【子ども連れでの参加】可能

楠福祉会

担当:岩井
TEL:052-502-5450(8:30～17:00)
E-mail:info@ajima.or.jp

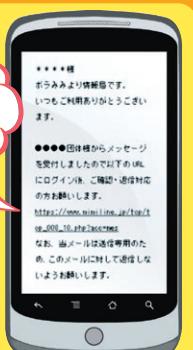


あなたの
ほしい情報が
メールで届きます

やりたい活動が見つかる
ボランティア登録サイト

みみライン

団体から
ボランティアの
お誘いが来ます



世界食料デー名古屋大会当日ボランティア募集!



国際

名古屋市
東区

「世界食料デー」は、世界の飢餓ゼロを目指して国連が定めた日です。今年は、インドネシアから現地スタッフを招き、活動地での取り組みについて聞きます。講演・音楽コンサートの会場案内や物販などのボランティアを募集します。ご質問があれば、お気軽にお問合せください。

- 時: 10月25日(土) 12:30~17:30
- 場所: 名古屋文化短期大学
名古屋市東区葵1-17-8
- その他: Eメール、または電話でお申込みください。
【定員】10名【交通手段】公共交通機関のみ
【最寄り駅】地下鉄東山線「新栄町」1番出口 徒歩2分

問合せ (一財)日本国際飢餓対策機構 愛知事務所
担当: 金沢
TEL: 052-265-7101 (月~金9:00~17:00)
E-mail: aichi@jifh.org



「やろまいか! 愛・地クリーン作戦」



環境

愛知県
長久手市

愛・地球博開催から20年を迎えた「愛・地球博記念公園(モリコロパーク)」及びその周辺道路での清掃活動を行います。クリーン作戦の参加者(ボランティア)を募集いたします。活動終了後、参加証明書を発行いたします。ボランティア保険は主催者で加入いたします。

- 時: 10月26日(日) 10:00~12:00(小雨決行、荒天中止)
- 場所: 愛・地球博記念公園及びその周辺道路
長久手市茨ケ廻間乙1533-1
- その他: 2次元コードよりお申込みください。
【子どもも連での参加】可能
【申込〆切】10月23日(木)
【定員】50名程度

問合せ NPO法人愛・地球博ボランティアセンター
担当: 渡邊
TEL: 070-8307-0351(事務所携帯)
E-mail: office@vol-expo2005.jp



リサイクルで海外協力



国際

環境

愛知県
豊田市

全国から寄せられた「道具」の仕分け、手入れ、発送準備などを行います。経験のない方でも気軽に参加できます。車での参加が基本となります。車をお持ちでない場合、早めにお知らせいただければ参加できる場合もあります。

- 時: 10月25日(土) 13:00~16:00 夜ジャズライブあり
10月26日(日) 9:00~15:00
- 場所: 豊田市旭八幡町敷田173-1 あさひ製材所内
- その他: 事前に電話・FAX・Eメールでお申込みください。【参加費等】参加形態により違いますので、事前にお問い合わせください。【持ち物】汚れてても良い服装、軍手など【子どもも連での参加】可能【申込〆切】10月21日(火)

問合せ (一財)日本国際飢餓対策機構 愛知事務所
担当: 金沢
TEL: 052-265-7101 (月~金9:00~17:00)
E-mail: aichi@jifh.org



自立のための道具の会・TFSR Japan

担当: 鈴木
TEL: 0565-68-3637 (8:00~18:00)
FAX: 0565-68-2817 E-mail: tools@tsfr.jp



まつりボランティア募集



障害者

愛知県
名古屋市
名東区

名東区にある障害福祉事業所でのイベント(TUTTIまつり)のお手伝いをして頂ける方、大募集です。お子様の遊びブースやバザーの売り子など接客が主な内容です。人と関わることが好きな方、皆で一緒に何かすることが好きな方大歓迎です。おまつり好きな方お待ちしています。

- 時: 11月8日(土) 9:30~14:30頃まで
- 場所: 名古屋市名東区藤森西町301-1
- その他: 電話・FAX・Eメール・インスタグラムより事前申込みをお願いします。
【持ち物】動きやすい服装
【子どもも連での参加】可能
【申込〆切】10月31日(金)

問合せ NPO法人愛・地球博ボランティアセンター
担当: 渡邊
TEL: 070-8307-0351(事務所携帯)
E-mail: office@vol-expo2005.jp



社会福祉法人TUTTI(トゥッティ)

担当: 小林
TEL: 052-760-5055 (9:00~17:00)
E-mail: tutti@gol.com



会員募集中!



『ボラミミ』の発行・配布費用は、会員のみなさまの会費に支えられています。ボラミミの活動に賛同し、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ご連絡ください。

TEL: 052-228-7824

E-mail: office@boramimi.com



新規・継続会員登録の方々 (順不同)

■法人正会員:

【継続】●特定非営利活動法人ジュヴェニル様

■個人正会員:

【継続】●岩尾 憲治様

■団体賛助会員:

【継続】●特定非営利活動法人ル・スリール・ジャポン様

●特定非営利活動法人みたけ・500万人の木曽川水トラスト様

●自立のための道具の会TFSR・Japan様

●特定非営利活動法人トルシーダ様 ●特定非営利活動法人あした様

■個人賛助会員

【継続】●坂下 功久様 ●山本 卓也様

●東 勝利様 ●匿名2名

■寄付

●愛知県図書教材協会様 ●匿名31名



「ボラミミ」配布先

— 詳細はホームページにて掲載中! —



●WEBより

<http://www.boramimi.com/haihu/>

●携帯より



みんなの声

●自立のための道具の会・TFSR Japan様

去年の6月に「第11回2024市民と企業の協働フェス

タ」を実施しました。そのときにご協力をしていた

いただきました。お礼が遅くなりました。

●堀川まちネット様

ボラミミ掲載の継続による信頼と他への紹介も

あるため、広報として重要視している。その他、ス

マイルゆうネットなどへの情報提供もして頂き、あ

りがとうございます。いつも、丁寧なご対応感謝

しております。

●名古屋NGOセンター様

いつもありがとうございます。今回は残念ながら問い合わせはありませんでしたが、また引き続きよろしくお願ひいたします。

●千種パソコン支援ボランティア様

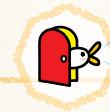
様々な方の目に留まるので、ありがとうございます。

おかげさまで、誌面をご覧になった方2名が受講

くださいり、その後、ボランティアとして活動してくれる

意思を伝えてくださいました。またこの講座を開催する

ときには、お世話になりたいと存じます。



編集後記



▼

本誌編集会議に伺いました。編集チーム2ヶ月目の目線の人です。みみ通信の四コママンガに出てくる一幕のほつと

する雰囲気がどこかで続く中(時々正面!?)、織田さんのファシリテーションに、次々と具体名、来歴解説のあがる姿

には、やっぱり本誌を支えているのは、こんなコミュニケーションと根っこは「ハート」なんじゃないのかなと。「優しく添削してくださるから。大丈夫だよ!」と励まされて帰る、そんな初回、印象でした。



次号予告

次号のテーマは 「となりにいるよ。」

2025年11月1日発行予定です。お楽しみに!



センター主催講座・イベントのご案内

9/27[土]

NPO講座「NPO法人設立のしかた編」

→14:00～16:00

(9月11日受付開始)

「NPO法人ってなに?」「どうやってNPO法人を設立するの?」など、NPO法人の設立前に準備するものや書類作成のポイントを学べる講座です。申請書類をチェックしているスタッフが説明します。

NPO法人の設立を考えている方はぜひどうぞ。

■定員:30名

■参加費:500円

■講師:市民活動推進センター職員

10/22[水]

→14:00～16:00

ボランティア入門講座～ボランティアへのはじめの一歩～

今回のお題は、「教育」

(9月11日受付開始)

「ボランティアをしたいけど、どうしたらいいの?」「自分にできるボランティアってなに?」そう思っている方にオススメのボランティアのスタートー講座です。経験豊富なボランティアが活動のイロハを語ります。自分に合ったボラを探すチャンスをお見逃しなく!今回は、多世代が一緒に楽しむ、科学入門講座を開催するNPO法人の代表の方のお話です。

■定員:30名

■参加費:500円

■講師:市民活動推進センター職員

■ゲスト:宮地 祐司氏(NPO法人楽知ん研究所 代表理事)

講座受講のお申込みは、窓口・電話・FAX・電子メールにて受付けます。電子メール・FAXでお申込みの際は、**講座名・氏名・電話番号・FAX番号・所属団体・参加動機**をご記入ください。名古屋市内に在住、在勤、在学の方、または名古屋市内で活動している(活動する意思のある)個人・団体を対象とします。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

※定員に達した時点で、締め切らせていただきます。ご了承ください。

■NPOのためのアドバイザー相談【参加費:無料、要申込】

内 容	日 程	担当アドバイザー
会計・税務	9/26 [金] 14:00～, 15:30～	橋本 俊也(税理士)
会計・税務	10/ 7 [火] 10:00～, 11:30～	足立 勝彦(税理士)
設立・運営	10/24 [金] 16:00～	織田 元樹(NPO法人ボラみみより情報局)

■NPOアドバイザーによるオンライン相談のご案内【参加費:無料、要申込】

対面での相談とは別に、Zoomによるオンライン相談を実施します。

相談日時については、申込後、アドバイザーと調整のうえ決定します。※相談時間は1回1時間以内

問合せ
申込先

名古屋市市民活動推進センター

住所:〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号

ナディアパークデザインセンタービル6階

電話:052-228-8039 FAX:052-228-8073

電子メール:npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp

URL:<https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/>



スタッフの
つぶやき

スタッフ:藏富

夏は高校、秋は大学、冬は中学校の学生さんが毎年、当センターへ、インターンシップ・職場体験にお見えになります。皆さん、とてもキラキラされています。(最近は、名前もキラキラしています。)本当に若いです。センターでの体験を、今後に生かしてもらえると嬉しい限りです。また、私たちも学生さんから、刺激をもらい、気づき、驚かされることが多いです。これがジェネレーションギャップというものでしょうか。



イラスト協力:加藤舞美

学生ボランティア募集中！愛知・名古屋2026大会

2026年9～10月、第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会が、愛知県・名古屋市で開催されます。4年に1度の、アジア最大のスポーツの祭典で、アジアの45の国と地域が参加します。スポーツにより友情を育み、多様性を認め合うことを通じて、国際平和に寄与する一大イベントです。



ボランティア
特設サイト



大学でのボランティア説明の様子

現在は、大学（院）、専門学校等に所属する学生（2026年4月1日時点で満18歳以上）及び教職員の方を対象にボランティアを募集しています。応募締切は、10月31日（金）です。

大会ボランティア

- ①競技運営サポート、②観客案内サポート、③運営サポート、④輸送サポート、
⑤スタッフ受付サポート、⑥言語サポート、⑦会場運営サポート、⑧選手サポート、
⑨ラウンジサービス、⑩テクノロジーサポート、⑪医療サポート、⑫大会準備サポート

都市ボランティア

- ⑬観光・交通案内サポート、⑭誘導案内サポート

ボランティアユニフォーム決定！

8月1日、第20回アジア競技大会時に、ボランティアのみなさんに着用していただくボランティアユニフォームの発表会がありました。



ユニフォーム
発表会の様子

第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）について



20th Asian Games
Aichi-Nagoya 2026

日 程	2026年9月19日(土)～10月4日(日)
競 技 数	41競技
選 手 団	最大15,000人
メイン会場	名古屋市瑞穂公園陸上競技場



公式
ウェブサイト



ホノホン
HONOHON
アジア競技大会
公式大会マスコット

アジアパラ競技大会
公式大会マスコット

第5回アジアパラ競技大会（2026／愛知・名古屋）について



5th Asian Para Games
Aichi-Nagoya 2026

日 程	2026年10月18日(日)～10月24日(土)
競 技 数	18競技
選 手 団	最大4,000人
メイン会場	名古屋市瑞穂公園陸上競技場



公式
ウェブサイト



ウズミン
UZMIN



5・6月の設立認証NPO法人

名 称	所在区	主な活動分野
でらいと	南区	まちづくり
かい	西区	子どもの健全育成
愛知子供の笑顔フォーラム	中区	子どもの健全育成
Bring Up Japan	千種区	子どもの健全育成
GLOBAL KIDS SQUARE	緑区	国際協力



6月末現在の所管法人数



認証法人数：886法人

認定法人数：32法人

特例認定法人数：2法人

“災害ボランティアコーディネーター養成講座”を実施します！

受援力の高さは復興の早さ 発災時、1日も早いボランティアの受け入れ体制が必要です。

災害ボランティアセンター

- ・発災時に全国から駆け付けるボランティアを受け入れ、被災者のニーズに合わせてボランティアを派遣する活動の拠点
- ・市が設置、市社会福祉協議会・災害ボランティア団体が運営



被災者ニーズ



マッチング！

ボランティア



「災害ボランティアコーディネーター」とは、災害時に集まるボランティアの受付・整理を行い、被災者のニーズを把握して、ボランティアと結びつける役割を担います。

平成14年度から始まった当講座の修了生が、各区で災害ボランティア団体を設立し、発災時には災害ボランティアセンターや被災現場で、平常時には地域で活動しています。



昨年度受講者の声（アンケートより）

- 災害ボランティアコーディネーター養成への熱い思いと期待をひしひしと感じる3日間でした。
- 実際の活動を知ることで、自分の地域の防災についても考えるきっかけになりました。
- 地元の防災について学び考えることができ、学区の災害ボランティアの団体にもお説明いただき、防災活動を始めやすいと感じました。

第41期 災害ボランティアコーディネーター養成講座

- ◆日 時：10月5日(日)、11日(土)、12日(日) (全3日間) 9:30～17:00
- ◆定 員：60名(応募者多数の場合は抽選になります)
- ◆参 加 費：無料
- ◆対 象：名古屋市内在住、在勤または在学の中学生以上の方で3日間を通して受講可能な方
- ◆会 場：真宗大谷派名古屋別院(東別院)(中区橘2-8-55)(10月5日)
名古屋市総合社会福祉会館7階 大会議室(北区清水4-17-1)(10月11日、12日)
- ◆募集締切：9月10日(水)
- ◆応募方法：下記の二次元コードを読み取り、申込フォームにてお申込みください。
申込フォームからの申込が難しい場合は、電子メールに、
①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号 ④勤務先または学校名(市外在住の方のみ) ⑤年齢(申込時点)
⑥メールアドレスを記入し、件名を「災害ボランティアコーディネーター養成講座」としてお申込みください。
- ◆宛 先：npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp

第41期災害ボランティアコーディネーター養成講座
申込フォーム



災害ボランティアコーディネーター養成講座
についてこちら



※第42期の開催を2月1日(日)、7日(土)、8日(日)に予定しています。

なごや

市民活動通信

2025
9・10月号
No.119
無料



市民のちからで
いきいきなごや

なごやNPO応援フェス 10/19(日) @Hisaya-odori Park

名古屋市では、社会課題の解決のために重要な役割を果たしているNPOの活動を応援する「なごやNPO応援フェス」を開催します!「名古屋まつり」と同日開催です。当日はHisaya-odori Park テレビトーヒロバで、NPOの活動紹介ブースや催し物、チャリティイベントを予定しています。

★日時：10月19日(日) 10:00～16:00



★場所：Hisaya-odori Park テレビトーヒロバ



■体験イベント&ダンスパフォーマンス

名古屋のプロバスケット2チームと当センターとのコラボが実現します。



名古屋ダイヤモンドドルフィンズ

ファイティングイーグルス名古屋

●チャリティシート体験&ダンスパフォーマンス

(体験イベント参加費有料 ※参加費はすべて、チャリティとして参加NPOの活動資金になります。)

★チャリティシート体験／時間：随時

★チアリーダーによるダンスパフォーマンス&NPO紹介／時間：☆第1部 10:00～、☆第2部 13:00～



☆体験イベント参加者には、プロバスケット2チームと当センターとのコラボ缶バッジをプレゼント！

※この冊子は、「なごや市民活動通信」と、「未来をつむぐライフマガジン『ボラみみ』」の合冊です。

■発行日：2025年9月1日

●「なごや市民活動通信」のお問い合わせ

■発行部数：9000部

名古屋市市民活動推進センター TEL 052-228-8039

●「ボラみみ」のお問い合わせ

特定非営利活動法人ボラみみより情報局 TEL 052-228-7824

印刷：菱源株式会社 ©名古屋市市民活動推進センター 2025 禁・無断転載